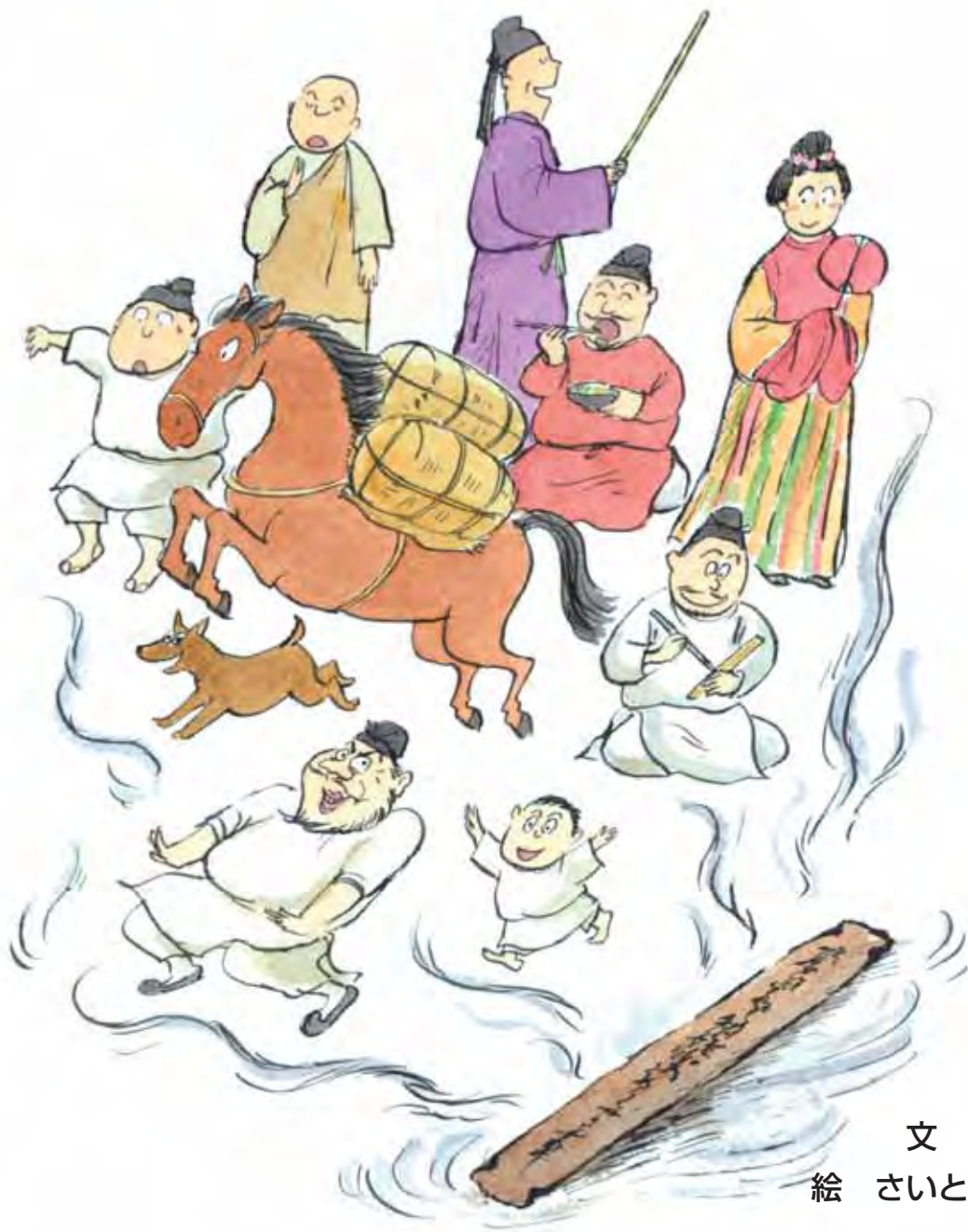


まほろば・けいはんな科学絵本

な ら みやこ もっ かん  
**奈良の都の木簡**

こ だい  
～古代からのタイムカプセル～

付録 『遺跡・資料館・博物館への招待』  
い せき しりょうかん はくぶつかん しょうたい



たての かすみ  
文 館野和己  
絵 さいとうあやこ

まほろば・けいはんな科学ネットワーク

# へいじょうきゅう はくくつ 平城宮の発掘



## へいじょうきゅうせき はくくつちよう さ 平城宮跡の発掘調査

今から 1300 年前に造られた奈良の都、平城京<sup>へいじょうきょう</sup>。710 年から 784 年まで栄えたあと都は今の京都に<sup>うつ</sup>遷されましたが、その大部分は都市としてのはたらきを失い、1000 年以上もの長い間水田として利用されてきたため、かえってその<sup>こんせき いぶつ</sup>痕跡や遺物が良好な<sup>じょうたい</sup>状態で地下に残されてきました。半世紀に及ぶ<sup>ならぶんか</sup>奈良文化財研究所による平城宮跡の<sup>じようほう</sup>継続的な発掘調査は、<sup>しゆん かしゅうとう</sup>春夏秋冬休むことなく古代日本の姿を明らかにする<sup>すかた</sup>うえでかけがえのない<sup>ふくげん だいごくでん</sup>情報をもたらし続けています。2010 年に復元された大極殿も、発掘調査の成果を生かして造られたものです。





寺田崇憲さん（左）と田中琢さん（右）。  
田中さんは寒さを防ぐためマフラーで頬かぶりをしていた。



■平城宮木簡第一号 法華寺にいた孝謙上天皇の側近の女官のもとに、小豆・醬・酢・末醬の四種類の食材を届けるよう、平城宮の大膳職という役所に請求した木簡

## 平城宮木簡第1号の発見

1961年1月24日、小雪の舞う午後2時ごろ、復元された大極殿の北にあたる場所で、ゴミ捨て用の穴の中からみつかった木片の泥をバケツの水で洗っていた作業員の寺田崇憲さんが叫びました。「タクサン！ナンカ字イカイタルデ」。「ちらつく小雪が消えるバケツの泥水、崇憲氏の手にした木片には、たしかに文字がみえた。」平城宮跡で木簡が初めて見つかった瞬間を、タクサンこと田中琢さんは、こう伝えていきます。

その後50年の間に全国で見つかった木簡は37万点余りにも及び、中でも平城宮・京跡が日本一の木簡の宝庫であることがわかってきました。第1号木簡をはじめとする平城宮跡の木簡の一部は、国の重要文化財に指定されています。平城宮跡は、まさしく地下の正倉院と言っても過言ではありません。

# もっかん 木簡って何だろう？



## ■さまざまな形・用途の日本の木簡

切り込みがあったり、穴を開けたりしてある木簡がある。右から三つめの木簡は役人の勤務評定カードの木簡で側面に穴が開いている。たくさんのカードを紐を通して保管するためだった（中国の木簡のように並べて使った日本の木簡は、このタイプの木簡だけである）。木簡の形をほかのページの木簡とも比べてみよう。



■中国の木簡（居延漢簡の冊書の事例。台北・中央研究院歴史語言研究所蔵）

## 木簡って何だろう？

木簡は木の札に墨で文字を書いたものです。奈良時代には、指示や報告、記録などの事務をとるために、あるいは文字の練習をするために、役所などで木簡は紙とともにごく普通に使われていました。税などの荷物を送る時にも、送った人や内容物を示すために、荷物には荷札の木簡が付けられました。

中国では木簡は、紙が作られる前から使われていました。今から2000年以上前になります。そのため『論語』のような長い内容の書物などは、同じ大きさの竹の札（竹簡）をたくさん紐でつないで書きました。しかし、日本で木簡が使われるようになった7世紀には、既に紙も使われていました。そこで当座の連絡・メモや荷札には、削って何度も再利用するのに便利で、かつ丈夫で壊れにくい木簡を使い、大事な記録や長いものには、保管に便利で改竄されにくい紙を使う、という具合に、紙と木簡はその長所を生かして使い分けられていました。







■役人の机（平城宮跡資料館）

## 木簡と役人

役人は事務を処理するために毎日多くの書類を作りました。その時、正式な書類は紙に書きましたが、簡単な内容やメモ、文字の練習などには木簡をよく使いました。木簡なら書きまちがえても刀子（ナイフ）で削れば文字は消えますし、何度でも再利用できます。役人は文字を書く筆と消す刀子が必需品です。そこで古代中国では記録を担当した役人を「刀筆の吏」と言うこともありました。役所・役人と木簡は、切っても切れない関係にあったのです。



## ながやおうけもっかん にじょうおおじもっかん 長屋王家木簡、二条大路木簡の発見

1980年代の終わり頃、奈良市内のデパート建設現場で発掘調査を行いました。すると奈良時代初め頃の広大な屋敷跡が見つかり、その中から約3万5千点もの木簡が一度に出土して、そこが高級貴族の長屋王の邸宅だったことがわかりました。長屋王家木簡と呼ぶこの木簡群から、長屋王の家族や邸宅内で働いていた人々、王家の持っていた田畑の様子など、貴族の生活の様子を知ることができました。諸国から届けられる米や海産物、長屋王の所領から毎日届けられる野菜類、中には奈良漬のルーツともいえる漬物もあって、貴族の食卓は想像以上にヘルシーで豊かなものでした。

また、屋敷北側の二条大路上に掘られた長大な濠状の穴からも、730年代の木簡が約7万4千点も見つかりました。二条大路木簡と言います。それによって長屋王邸はその後、光明皇后の宮に変わったことがわかりました。この二大木簡群の発見は、数・内容の上で木簡研究だけでなく、日本の古代史研究を大きく塗り替えることになりました。

歴史書からはわからなかった重要な事実を次々と明らかにする木簡が、平城宮・京跡のどこにでもまだまだたくさん眠っている可能性があるのです。



■再利用に伴って削られて生まれた長屋王家木簡の削屑



## 政府が編さんした

### 歴史書

しよくにほんぎ  
『続日本紀』



■『続日本紀』蓬左文庫本（天平10年5月-閏7月）（名古屋市蓬左文庫蔵）  
（『蓬左文庫本続日本紀』二（八木書店）より転載）

## 出土した 「木簡」



■長屋王家木簡 長屋王という貴族の邸内で用いられた710年代の木簡群。平城京左京三条二坊八坪で見つかった。

■二条大路木簡 光明皇后宮の活動に伴って使われた736年（天平8）頃の木簡群。長屋王邸北側の二条大路上から見つかった。

## なぜ木簡を研究するの？

古代史を調べる時にまず見るのは、古代の政府によって作られた歴史書です。たとえば奈良時代のことは『続日本紀』に、それ以前の歴史は『日本書紀』に記されています。でもそうした歴史書は、過去のできごとを後世に伝えるために作られたもので、歴史的に重要なことは書いてあっても、細かいことにはふれていません。一方木簡は、日常的な事務処理や納税などのために使われたものですので、具体的な仕事の仕方や、どこからどのような物が納められたのかといった、細かい事実を具体的にありのまま教えてくれます。歴史書と木簡、どちらも歴史の解明には欠かせません。

歴史書以外にも、木簡を読むには同じ時代のあらゆる史料を頭に入れて、木簡を使った人たちのことを知っておく必要があります。そのことが木簡の理解を深め、木簡の解読が新しい歴史を生み出すのです。木簡は古代史の研究になくしてはならないものとなりました。

# 木簡を科学する



■見つかったばかりの木簡



■完全なかたちで出土する木簡は極めて少なく、小刀で削り取られたかなな屑状の薄片に文字が残る削屑の方がずっと多い。

## 木簡はなぜ1300年もの間、腐らずに残っていたの？

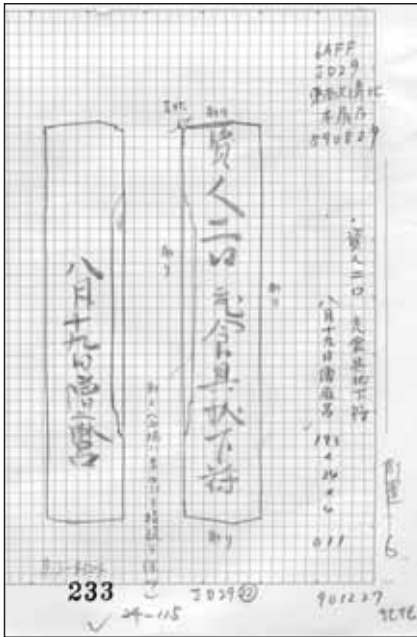
木簡は長い間土の中に、しかも地下水にひたって埋もれていました。そのため日光や空気に触れることがなかったのです。こうして紫外線や酸素の影響から守られてきたことが、木簡が腐らずに残った秘密です。地上やあるいは地下でも浅い所に木が置かれていたら、濡れたり乾いたりを繰り返し、バクテリアの働きで木は腐ってしまいます。木簡は昔、溝や井戸、穴などにゴミとして捨てられたため地下深い所にあり、今日まで守られてきたのです。

## 木簡を読み解く



木簡は古代人がゴミとして捨てたものですから、多くは折れたり割れたりしたものや、再利用のために削り取られた削屑です。そこで、木簡の研究は、まず持ち帰った土を、ふるいの中に入れて水を流すことから始まります。土が洗い流され、ふるいの中には、木簡や土器の破片などさまざまな遺物が残ります。





■左手で水中の木簡を左右に傾けると、屈折の関係で木肌が白くなって文字が浮き出る角度が必ずあります。そこをねらって観察しながら、右手の方眼紙にスケッチしていきます。

次に木簡を丁寧に詳しく観察し、その結果をノートに書きます。形を写し大きさを計り、元の形かそれとも割れたり折れたりしているか、どのように文字が書かれているかを観察して書き込んでいきます。記帳きちょうという基本的作業です。



次にこの記帳に基づいて、何という文字が書かれているかを決めていきます。墨がうすく肉眼で見にくいときは、赤外線装置せきがいせんそうも使います。文字が浮かび上がってくるからです。文字は大事な情報なので、数人の研究員で議論しながら決めます。その内容は進行中の発掘調査にも役立てられます。



■『木簡概報』の一部

次に写真を撮影さつえいします。木簡はもろく、また日光にあてない方がよいので、保管庫ほかんこにしまい、これからの作業では写真が現物に代わって活躍します。こうした作業で木簡は歴史の史料に生まれ変わります。主な木簡は『木簡概報』などでまず公表され、さらに数年の作業を経て、すべての木簡に原寸大の写真と解説を付けた正式の報告書が作成されます。木簡に命を与える作業は、人間の経験と勘が何よりもものをいう仕事なのです。

## 木簡を<sup>ほ ぞん</sup>保存する

地下水に守られてきた木簡は、内部に大量の水分を含んでいます。だから乾燥するとクシャクシャになってしまうのです。そこで水の中に入れて保管しますが、腐らないように、<sup>かんそう</sup>ホウ酸とホウ砂という薬を溶かした水を使います。

しかしそれだけでなく、科学的な保存方法も使います。たとえば木簡の中の水分を、常温で固体の物質（炭素数の多いアルコール〈高級アルコールと言います〉など）に置き換えてやるのです。木簡は水によって形を保ってきたわけですから、置き換えは少しずつ<sup>のうど</sup>濃度を上げ、慎重に時間をかけて行う必要があります。大きなものや分厚い木簡では、この作業が半年から1年に及ぶ場合もあります。置き換えが済んだら<sup>れいきやく</sup>冷却して固めますが、木簡の状態によっては、<sup>しんくうとうけつかんそう</sup>真空凍結乾燥というインスタントコーヒーやラーメンを作る時に用いる方法<sup>へいよう</sup>を併用する場合があります。急速にマイナス40度に<sup>れいきやく</sup>冷却して凍らせ、真空状態にして残った水分を飛ばして乾燥させるため、形がくずれるのを防げるのです。

こうして科学的保存処理を行うと、木簡は空気中でも保存できるようになります。しかし、それでも温度や湿度<sup>びんかん</sup>の変化には敏感なので、保管には温度・湿度を一定に保ち、光にあてないなど十分に気をつける必要があります。木簡は<sup>せんさい いぶつ</sup>繊細な遺物なのです。



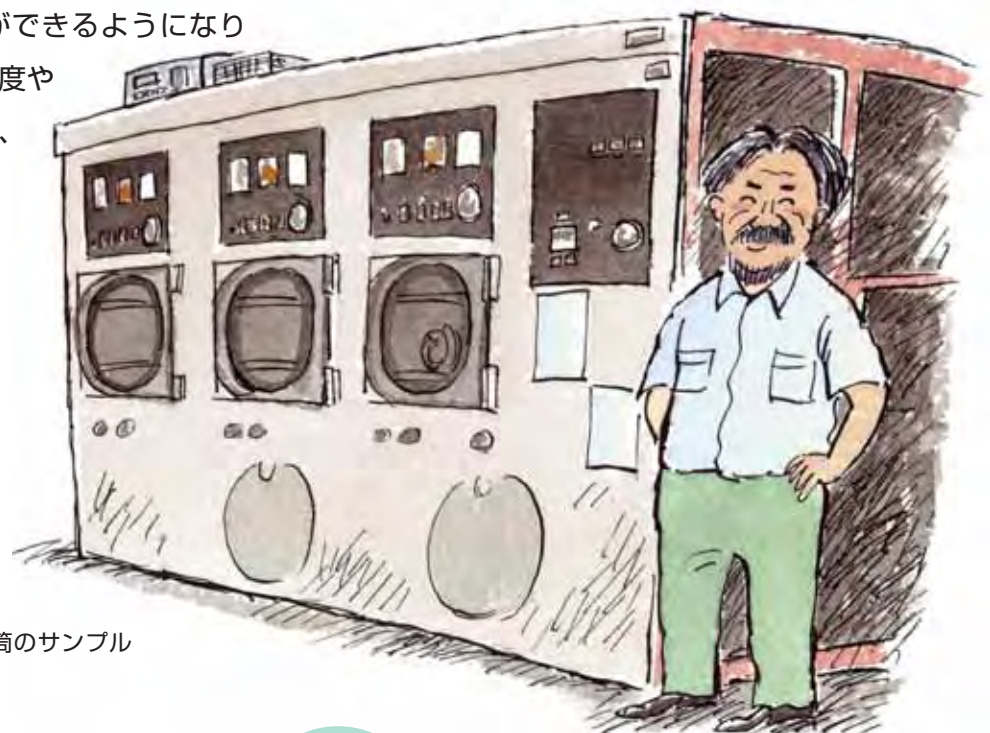
■洗浄された木簡はパットなどの容器に水を浸し、その中で「ザブトン」（脱脂綿をガーゼにぐるんで縫いつけたもの）に挟み込んで保管される。



■水漬け状態で木簡庫に保管される木簡たち。平城宮・京跡出土木簡は、現在この箱で3000箱近くある。定期的な水の管理が木簡の保管には欠かせない。



■この容器のなかで、水分を高級アルコールに置き換える処理が、長い時間をかけて行われる。



■木簡用の真空凍結乾燥機。円筒のサンプルチャンバーに木簡を入れる。



# コンピュータ技術の活用



木簡データベース 検索



木簡字典 検索



木簡は 1000 年以上も前のものですが、その調査・研究には最先端のコンピュータ技術も応用されています。その 1 つは木簡データベースです。全国各地で出土した約 4 万 5 千点の木簡のデータが登録されています。そして遺跡名や書かれた文字、人名、年号などで検索することができます。たとえば「大豆」という字で検索すると、瞬時に 57 点の木簡が出てきます（2010 年 10 月現在）。また文字がどのような形で書かれていたか、画像で示す木簡画像データベース「木簡字典」もあり、いずれも奈良文化財研究所のホームページで公開されています。さらには木簡の文字を読み取る作業を支援するシステムも開発中です。みなさんも是非試してみてください。

※ 奈良文化財研究所の公開データベース URL : <http://www.nabunken.go.jp/database/index.html>

# 木簡でよみがえる奈良の都の日常



## やくしよづと 役所勤めの日々

平城宮には、皇族・貴族から下級の役人まで、毎日1万人くらいの人々が働いていました。役人たちは、白々と夜が明け始める頃までには出勤して宮城門が開くのを待っていないければなりませんでした。それは平城宮の近くに住んでいた貴族も、宮から何キロも離れた八条や九条に住む下級役人でも同じです。真っ暗な夜道を平城宮に向かう役人たちの列が続いていたことでしょう。下級役人たちは、今日と同じようにさまざまな書類を作っていました。書類には紙もあれば木簡もあったのです。毎日大量の木簡が作られました。役所と役人との間で、あるいは役所間でやりとりされた書類の木簡や、給食支給の木簡、夜勤の担当者を報告した木簡などのほか、役人たちの勤務成績を書いた木簡なども見つかっています。



■役所で用いられたさまざまな木簡





九々八十一  
八九七十四・  
九々八十一  
八九七十四

■九九の練習をした木簡（赤外線画像）。八九七十四と間違えている！

■役人が文字の練習をした木簡

■法律の条文（大宝令の戸令）を練習した木簡



■二条大路木簡と一緒に見つかった絵。役人や女官の姿を生き生きと描く。

## 役人たちの手習い

役人たちが確実に事務を処理するためには、法律を覚え、文章をまちがいに書き、正しく計算ができればなりません。そこで木簡に法律文や『論語』の一節を書いたり、同じ文字を何度も書いたりして、勉強をし文字の練習をしました。文字の練習だけでなく、落書きとしか思えないようなものもあります。また、人物画などをスケッチしたものもあります。掛け算の九九を書いたものもありますが、当時の九九は、今と違って九九、八九、七九…の順序でした。





## 地方からの租税

奈良時代には大量の税が都に運ばれてきました。それらの荷物には、負担者の名と税の内容を書いた、荷札の木簡が付けられていました。それで正しく税を出しているかを、地方の役所がチェックしたのです。平城宮の内外で多数の荷札が見つかっており、各地から荷物を担いで運んできた人々の苦勞がしのべられます。また若狭の塩、伊豆・駿河の堅魚（干しカツオ）、上総の鰯、備後の鯨など、その地方の特産物が荷札から浮かび上がってきています。

荷札には長方形のもの、切り込みのあるもの、下端を尖らせたものなどがあります。切りこみはものに括り付けるための紐をかけるための装置で、植物の蔓などを使った紐がついたままの荷札が見つかることもあります。



■全国各地からさまざまな税目で納められた物品の荷札





■本文

告知 往還諸人 走失黒鹿毛牡馬一匹〈在験片目白／額少白〉件馬以今月六日申時山階寺南花園池辺而走失也 若有見捉者可告来山階寺中室自南端第三房之 九月八日

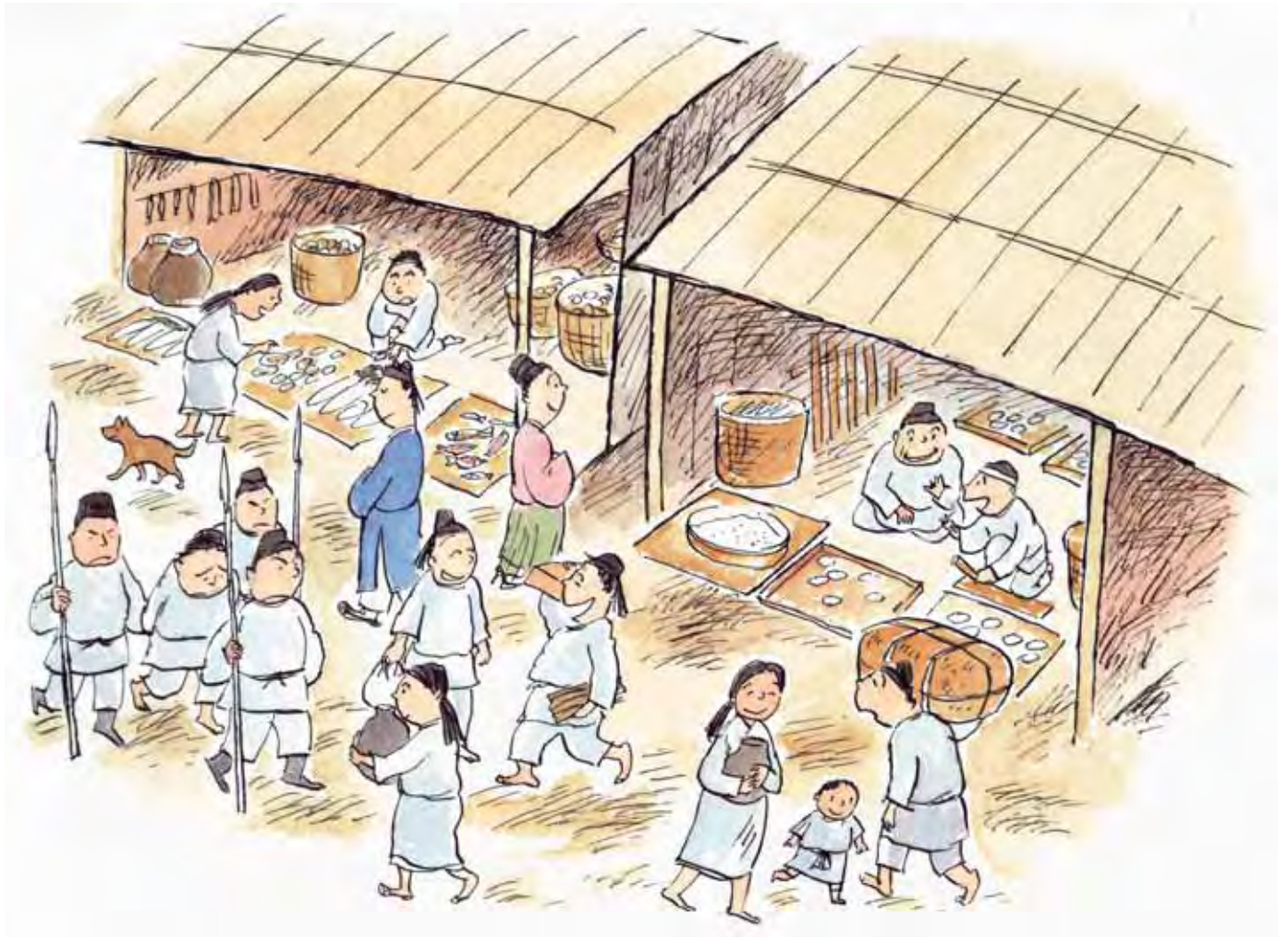
■訳文

「行き来している皆さんにお知らせします。逃げてしまった黒の鹿毛（かげ）の牡馬一匹、目印は片目が白くて、額がやや白い。件の馬は今月六日申（さる）の時（午後4時ごろ）、山階寺（興福寺）の南の花園の池（猿沢池）の辺で逃げられてしまいました。もし見たりつかまえたりした人がいたら、興福寺の中室（僧侶が住んでいる建物）の南側から三番目の房（部屋）までお知らせください。9月8日。」

■逃げた馬の搜索を依頼する看板の木簡（告知札）

みちばた  
道端に立てられた木簡

今の奈良市立一条高校の東、平城京の東三坊大路の道端に1メートルくらいの長い立て札が立っています。興福寺のお坊さんが飼っていたオス馬に逃げられ、情報を求めているのです。他にも、畑を荒らす馬を捕まえたとか、牛が盗まれたという内容の立て札が見つかります。今でもよく見かける、いなくなったペットの情報提供を求める街頭の張り紙。それと同じ役割を果たしていたこれらの木簡は、いずれも「告知」という言葉から始まっているので「告知札」と呼ばれています。天長5年(828)の日付のものもあり、平安時代に入っても道を行き来する人たちの多かったことがうかがえます。でも字を読めない人もいたので、札を立てる時に、役人が読み上げたと考えられています。



## にぎ 市の賑わい

平城京には、左京と右京にそれぞれ東市・西市という市場がありました。どちらも京の南部、八条の地に、約 250 メートル四方の面積を占め、その中は店舗、倉庫、市を管理する役所である市司が建つ区画などに分かれていました。営業時間は毎日午後、日の入りまでです。店で商売をする市人だけでなく、商品を持ってきて売る行商人も多くいました。また東市では市の中に、西市では市の外側に、大きな堀河が掘られ、舟で荷物を運んでいました。右京の堀河のなごりが秋篠川です。市は大勢の人々でにぎわい、和同開珎などの銭も使われました。市は人々が大勢集まる場所なので、時には見せしめのための処刑が行われることもありました。



■奈良時代の銭貨三種（左から和同開珎・万年通宝。神功開宝）と富本銭



■平城京の西市で買物するための銭の付札





## 「地下の万葉集」－歌木簡－

奈良時代の<sup>し ぐら</sup>紫香<sup>のみや</sup>樂宮跡にあたる滋賀県<sup>こうか</sup>甲賀市<sup>みやまち</sup>宮町遺跡から、表裏に和歌を書いた木簡が見つかりました。長さを復元すると60センチメートルほどになり、<sup>ぎしき</sup>儀式などの場で歌を<sup>よ</sup>詠みあげる時に使った木簡とみられていて、<sup>うたもっかん</sup>歌木簡と呼ばれています。

木津川市の<sup>ば</sup>馬場南<sup>みなみ</sup>遺跡でも、『万葉集』巻10の2205番歌「<sup>あきはぎ</sup>秋萩<sup>した</sup>の下<sup>した</sup>葉もみちぬあらたまの月の経ぬれば風をいたみかも」の一部を書いたらしい木簡が見つかりました。宮町遺跡の歌木簡は厚さが1ミリしかありませんでしたが、馬場南遺跡の木簡は厚さが1センチメートル以上もあり、まさに歌木簡と呼ぶに<sup>ふさわ</sup>相応しい立派な木簡です。

でも、どうしてこんな木簡が見つかったかは謎のままです。馬場南遺跡<sup>かんの おでら</sup>は神雄寺というお寺の跡とわかったのですが、お寺でどうして歌が詠まれたのでしょうか。しかもこの歌は誰が呼んだかわからないとされる歌です。馬場南遺跡は京都府南部地域を本拠地とした<sup>たちばなのもろえ</sup>橘諸兄という大臣の別荘ではないかともいわれ、彼は『万葉集』を作った大伴<sup>おおもものやかもち</sup>家持とも親しい間柄でした。<sup>くにぎょう</sup>恭仁京への遷都も<sup>せんともろえ</sup>諸兄の勧めによるといわれ、馬場南遺跡は推定される恭仁京の右京の南端に近い場所にあります。一点の木簡がいろいろなことを考えさせてくれる好例といえるでしょう。

■京都府木津川市馬場南遺跡で見つかった『万葉集』の歌（秋萩の下葉もみちぬあらたまの月の経ぬれば風をいたみかも 巻10、2205番歌）を書いたとみられる歌木簡。

まほろば・けいはんな科学ネットワークの連携自治体である 10 市町及び明日香村で発掘された飛鳥時代、奈良時代の  
主な遺跡と各市町にある資料館、博物館について、それぞれの関係部署及び機関からご提供いただいた紹介文と写真を掲載しています。  
なお、入館料ほかの掲載データは 2010 年（平成 22 年）10 月現在のものです。

## 遺跡・資料館・博物館への招待

### 目次



19

平城宮跡（奈良市）  
第一次大極殿（奈良市）  
朱雀門（奈良市）  
平城京朱雀大路（奈良市）

26

明日香村埋蔵文化財展示室（明日香村）  
高松塚壁画館（明日香村）  
奈良県立万葉文化館（明日香村）

20

東院庭園（奈良市）  
平城京左京三条二坊宮跡庭園（奈良市）  
奈良文化財研究所 平城宮跡資料館（奈良市）

27

上之宮遺跡（桜井市）  
山田寺跡（桜井市）  
桜井市立埋蔵文化財センター展示室（桜井市）  
氷室神社（都祁氷室）（天理市）

21

平城宮跡遺構展示館（奈良市）  
奈良市埋蔵文化財調査センター展示室（奈良市）  
奈良国立博物館（奈良市）

28

天理市立黒塚古墳展示館（天理市）  
天理大学附属天理参考館（天理市）  
生駒山北方窯跡（生駒市）  
山本駅跡（京田辺市）

22

平城京羅城門跡（大和郡山市）  
平城京十条（平城京南方遺跡：下三橋遺跡）（大和郡山市）  
平城京西市跡（大和郡山市）  
藤原宮跡（橿原市）

29

恭仁宮跡・大極殿跡（木津川市）  
馬場南遺跡（木津川市）  
上津遺跡（泉津）（木津川市）

23

奈良文化財研究所 藤原宮跡資料室（橿原市）  
橿原市藤原京資料室（橿原市）  
奈良県立橿原考古学研究所（橿原市）  
奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館（橿原市）

30

奈良山瓦窯跡（木津川市／奈良市）  
樋ノ口遺跡（木津川市／精華町）  
ふるさとミュージアム山城（京都府立山城郷土資料館）（木津川市）  
畑ノ前遺跡（精華町）

24

飛鳥京跡（明日香村）  
飛鳥池遺跡（明日香村）

31

百濟寺跡（枚方市）  
禁野本町遺跡（枚方市）

25

石神遺跡（明日香村）  
飛鳥水落遺跡（明日香村）  
奈良文化財研究所 飛鳥資料館（明日香村）

〈マークでお知らせしています〉 所：所在地 電：電話番号  
開：開館時間 入：入館料 休：休館日





■宮内省復原建物



■第二次大極殿と内裏



■兵部省復元整備

平城宮は、710年（和銅3）から784年（延暦3）まで74年間続いた日本の首都、平城京の北端に位置する、<sup>りつりょうこっか</sup>律令国家の中心施設です。特別史跡に指定されています。今の皇居（天皇の住まい）、国会議事堂（政策審議の場）、霞ヶ関（官庁街）を合わせたような空間で、高さ約6mの土を突き固めて造った築地塀で囲まれていました。約1km四方の東側の北から4分の3にだけ、東への出っ張りが付く、不思議な形をしています。

平城宮跡の発掘調査が始まってから半世紀、調査面積はまだ35%程度ですが、地下数十cmの所に当時の地面がそのまま埋もれていて、地面に残る生活の痕跡やさまざまなゴミから、8世紀の日本の様子を明らかにする大事なデータがたくさん得られています。中でも木に墨で文字を書いた木簡は、国のしくみから役人の日常のつづきまで、歴史書や古文書だけからではわからなかった1300年前の様子を、あざやかに伝えてくれます。

だいじくたいくたい  
第一次大極殿



■高御座（たかみくら）

大極殿は、天皇の即位式や元日の挨拶などの国家の最も重要な儀式を行う場です。礎石を用いた中国風の建物で、唐長安城<sup>だいめいぎきゅう</sup>大明宮の含元殿をまねたといわれています。朱雀門の真北に位置する周囲を回廊で囲まれた空間の北部、磚（レンガ）を積み上げた段の上に建てられていました。儀式の時に回廊の内側に入れるのは200人程度の貴族だけで、下級の役人たちは南の朝堂院に並んだようです。

この大極殿は、740年（天平12）の<sup>くに</sup>恭仁京への遷都に伴って、恭



■第一次大極殿

仁宮に移築されます。745年に都が平城京に戻った時、大極殿は東の区画に新たに建設されま

す。このためこれと区別して第一次大極殿と呼んでいます。実は、第一次大極殿そのものも、藤原宮の大極殿を平城宮に移築したものであったのです。

所 平城宮跡内

すずくもん  
朱雀門



■朱雀門



■朱雀門風鐺

朱雀門は、平城宮の周囲の各面に3つずつ計12設けられた宮城門のうち、南側中央に位置する宮の正門です。平城京の正門<sup>らじょうもん</sup>羅城門から、幅75mの朱雀<sup>すずく</sup>大路を約4km北上した突き当た

りに位置します。幅約25m、奥行約10mの規模の二重の門で、<sup>ほりこみじぎょう</sup>掘込地業という技法で丁寧に突き固められた基礎の上に建てていたことが発掘調査でわかりました。朱雀門の前で歌垣などのイベントを行った記録もあり、門の前は広場としての役割も果たしたようです。

所 平城宮跡内

へいじょうきゅう すずくおおじ  
平城京朱雀大路



■朱雀大路と朱雀門

朱雀大路は、奈良の都平城京のメインストリートです。南北3.7km、路面幅約70mの規模で、都の正門である羅城門から平城宮の南正門の朱雀門までを一直線に結ぶ大路でした。昭和59年（1984年）に、平城



■朱雀大路を空から望む

宮跡から大宮通りまでの南北約220m（幅約90m）の範囲が、国の史跡に指定されています。大路の名前は、東西南北の四方向を守る四神のうち、南を守る「朱雀」か

ら付けられており、この大路を基準に平城京の都市が計画されました。外国の使節などを、朱雀大路を通過して平城宮へと案内するため、都の大路の中でも最も大きく立派に作られており、広い道路の側溝と高く築かれた築地塀が延々と続く荘厳な景観は奈良の都の象徴でした。

所 奈良市二条大路南三丁目・四丁目、三条大路三丁目



■北東から園池、復原建物を望む

ものぞめたことでしょう。石組みの池は、発掘した本物をそのまま露出展示しており、庭園が造られた奈良時代中ごろの様子を復原しています。

所 奈良市三条大路1-5-37 ☎ 0742-34-1111(奈良市文化財課)

開 午前9時～午後5時 入 無料 休 水曜日（祝日の場合はその翌日）、祝日の翌日（土・日は除く）、年末年始（12月26日～1月5日）

## 東院庭園

奈良市



■東院庭園全景



■東院庭園石組

平城宮東張り出し部の南半には東院と呼ぶ区画があり、皇太子の住まいや天皇の離宮として使われていました。その中心部分の発掘はまだこれからですが、南東隅部分から池をとまなう庭園が見つかり、池に張り出す建

物や橋、南東隅の楼閣などが復原されています。天皇や一部の貴族のための遊宴の場とみられます。また、曲水の宴に用いたらしい蛇行する石組溝も見つかり復元されています。国の特別名勝です。

所 平城宮跡内

## 平城京左京三条二坊宮跡庭園

奈良市

昭和50年（1975年）の発掘調査によって発見された、奈良時代の庭園です。平城宮の離宮的な施設または皇族などの邸宅（宮）であったとも考えられます。昭和53年（1978年）に国の特別史跡、平成4年（1992年）に国の特別名勝に指定されました。庭園の中心となるのは、玉石を敷き詰めたS字状の池と、その西側に配置された池を鑑賞するための南北に長い建物です。奈良時代には、春日の山々

## 奈良文化財研究所

## 平城宮跡資料館

奈良市



■発掘調査のジオラマ模型



■木簡・木器・金属器・土器の研究室が並んだコーナー



■役人の仕事場

平城宮跡の西のはしにある資料館では、奈良文化財研究所による平城宮の発掘調査・研究の成果をもとに、平城宮をわかりやすく展示しています。役所や宮殿の内部を実物大のジオラマで再現した復元展示コーナー、

土器や瓦や木製品、木簡など発掘調査の出土品を展示した遺物展示コーナーなどを廻ることで、当時の役人たちの仕事や貴族の暮らしぶりなど、平城宮に関する理解を深めることができます。また、発掘調査のジオラマ模型や研究員の机などの展示を通して、奈良文化財研究





■貴族の食卓

所の仕事についても知ることができます。随時、ボランティアの方々による展示解説があります。

所 奈良県奈良市佐紀町 電 0742-30-6752 (奈良文化財研究所研究支援推進部連携推進課)

開 午前9時～午後4時30分 (入場は4時まで) 入 無料 休 毎週月曜日 (祝日の場合は翌日) 年末年始

## 平城宮跡遺構展示館

奈良市



「平城宮跡」バス停のすぐ前にある遺構展示館では、奈良時代に4回も建て替えられた建物の柱跡や大量の磚(レンガ)を敷き詰めた建物の遺構露出展示など、発掘現場が発掘したときの

状態そのままで展示してあります。また発掘された本物の井戸枠や第一次大極殿や内裏の復元模型なども展示されています。随時、ボランティアの方々による展示解説があります。



■磚を敷き詰めた建物の遺構露出展示



■井戸枠



■柱跡の遺構露出展示

所 奈良県奈良市佐紀町 電 0742-30-6752 (奈良文化財研究所研究支援推進部連携推進課) 開 午前9時～午後4時30分 (入場は4時まで) 入 無料 休 毎週月曜日 (祝日の場合は翌日) 年末年始

## 奈良市埋蔵文化財調査センター展示室

奈良市

奈良市埋蔵文化財調査センターは、奈良市における埋蔵文化財の発掘および調査、研究、出土品の整理、保存を行い活用を図る拠点施設として、昭和58年9月1日に設置されました。市民向けの普及啓発活動として、出土遺物から奈良の歴史をたどる常設展示「出土品が語る奈良の歴史」のほか、随時、特別展や発掘調査の速報展を行っています。



■奈良時代の土師器・須恵器



■家形埴輪

います。また、出土品の実物を各時代から選び、その解説書とともに、奈良市内の学校に貸し出す「ドキ土器 kit」サービスも実施しています。

所 奈良市大安寺西二丁目281番地 電 0742-33-1821

開 午前9時～午後5時 入 無料 休 土曜日・日曜日・祝日・年末年始 (12月29日～1月3日)

## 奈良国立博物館

奈良市



■なら仏像館(本館)



■新館



■なら仏像館第1室



■なら仏像館第2室

奈良公園の一角にあって、東大寺、興福寺、春日大社などに隣接しており、仏教美術を中心とした文化財について収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。「なら仏像館(本館)」では、飛鳥から鎌倉

時代にいたる日本の彫刻史を代表する優れた仏像の数々を紹介しています。ゆったりとした環境のなかで、仏教美術の魅力と、その背景にある豊かな歴史・文化



■正倉院宝物



のすばらしさにふれていただけることと思います。また、毎年秋に、新館で開催される「正倉院展」には、聖武天皇愛用の品々をはじめ正倉院に伝来した数多くの宝物が出陳され、日本各地から多くの来場者を集めています。

所 奈良市登大路町50番地 ☎ 050-5542-8600 (NTTハローダイヤル) 開 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) 入 一般：500(400)円、大学生250(200)円、高校生及び18歳未満と70歳以上の方は無料 ※ ( )は20名以上の団体料金 特別展などは展覧会ごとに定める。休 月曜日(休日の場合は翌日、連休の場合は終了日の翌日)、1月1日

## 平城京羅城門跡

大和郡山市



■羅城門復元模型



■羅城門の現状

羅城門は古代の都・平城京の中央を南北に通る朱雀大路(道幅約74m)の南端にあり、都の玄関口となった京の正門です。『続日本紀』によれば、門では雨乞いが行われ、また、唐や新羅の使節を歓迎するなど、宗教的な場、外交儀礼の場でもあったことがわかります。昭和44～46年(1969～71)にかけて発掘調査が行われ、門の基壇の西隅部が検出され、門の本体は佐保川の西側堤防の真下に位置することが判明しました。門の規模について、従来は桁行五間(約25m)で、平城宮の正門である朱雀門とほぼ同じ規模の建物に復元されていましたが、最近では門の正面は七間(約34m)で、京内最大の門であったという説が有力です。

所 大和郡山市観音寺町

## 平城京十条(平城京南方遺跡：下三橋遺跡)

大和郡山市



■平城京十条

イオンモール大和郡山の建設に先立って、平成17年から19年にかけて実施した発掘調査で、従来の九条大路の南側からも条坊道路や掘立柱建物、井戸、土坑などが発見され、さらに十条大路が

検出されたことから、平城京は遷都当初にはすくなくとも左京側(朱雀大路より東側の部分)においては十条まで作られていたことが判



■羅城全景

明しました。検出された大路、坊間路などの条坊道路はすべて九条大路より北に広がる条坊道路と同規格で施工されていました。ただし、これら

十条関連遺構の多くは、遷都後20年たった730年ごろには埋められてしまい、九条大路の南側に羅城が新たに作られました。

所 大和郡山市下三橋町

## 平城京西市跡

大和郡山市



■現在の平城京西市跡

平城京には二つの官営市場がありました。右京八条二坊の西市と左京八条三坊(奈良市東九条町・杏町付近)の東市です。西市は近鉄九条駅の東側一帯にあったと推定され、その広さは五、六、十一、十二坪の四坪(約70,000㎡)を占めていたと考えられています。市は市司によって管理され、周囲には垣がめぐり、四方に門があったと推定されています。市は正午から日没まで開かれ、店には商品の名札が立てられ、米・麦・魚・海藻・塩・野菜などの食料品、麻などの衣料品、その他日用品や装身具などが売られていました。

所 大和郡山市九条町

## 藤原宮跡

橿原市



■藤原宮大極殿跡遠景

藤原宮は、694年から710年までの日本の首都だった藤原京の中央に位置する中心施設です。藤原京は、日本で最初の役人の居住する都市空間(=京)をもつ都で、中国の文献にみえる理想的な都の形を実現しようとしたものでした。こうした藤原宮・京の様子は、発掘調査によってはじ

めて明らかになりました。701年(大宝1)には大宝律令を公布し、これを契機に宮城内部の新たな整備も進められたようです。藤原京は律令に基づく日本古代国家の都市として発展するはずでした。





■藤原宮跡出土木簡

ところが、702年に出発した大宝の遣唐使が帰国してもたらした唐の都の様子は、藤原京とは全く異なるものでした。その結果、唐の都長安という現実の都をモデルとした都が造られることになり

ます。それが平城京です。結果的に藤原京はわずか16年という短命な都に終わりますが、藤原宮大極殿が平城宮第一次大極殿として移築されたことからわかるように、藤原京は日本が造ろうとした律令国家の原点として重要な位置を占めます。

平城宮跡とともに継続的な発掘調査が行われ、日本の古代国家の解明に大きく貢献しています。

所 橿原市醍醐町・高殿町他

や、完成後の都の様子、住民の暮らしぶり、平城京に都が遷された後のこの地域の姿などについて、見つかった遺物や、模型・写真パネルなどでわかりやすく展示しています。

所 橿原市木之本町94-1(奈良文化財研究所 都城発掘調査部庁舎内)  
 電 0744-24-1122 開 午前9時～午後4時30分 入 無料 休 土・日曜、祝日、年末年始及び展示替期間

かしはらし ふじわらきょう しりょうしつ  
**橿原市藤原京資料室**

橿原市



■藤原宮の柱

橿原市藤原京資料室は、「特別史跡藤原宮跡」をより理解して頂くことを目的に、平成18年10

月に開室しました。展示物は、藤原京の1,000分の1模型(約6m×7m)や、出土品(柱や瓦)、当時の柱を再現したもの、記念撮影用看板、古代衣装をまとった人形などです。また、当時の藤原京の様子をリアルに再現したコンピュータグラフィックスもご覧いただけます。



■藤原京模型

所 橿原市縄手町178-1(JAならけん橿原東部経済センターの2階)  
 電 0744-22-4401 開 午前9時～午後5時(最終入室は午後4:30まで) 入 無料 休 月曜日(祝日の場合は、その翌日)、年末年始(12月27日～1月4日)

ならぶんかざいけんきゅうしよ ふじわらきょうせきしりょうしつ  
**奈良文化財研究所 藤原宮跡資料室**

橿原市



奈良文化財研究所が調査を担当した、飛鳥地域の宮殿・寺院・古墳などの遺跡や藤原宮・京の発掘成果を公開・展示するために設けられた展示施設です。藤原宮・京が造り上げられる過程



■玄関ホール(速報展示)



■市で売られた品々



■藤原宮の役人

ならけんりつかしはらこうごがくけんきゅうしよ  
**奈良県立橿原考古学研究所**

橿原市

ならけんりつかしはらこうごがくけんきゅうしよ ぶそくはくぶつかん  
**奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館**

橿原市



■橿原考古学研究所



■同 附属博物館

奈良県立橿原考古学研究所は、奈良県内の埋蔵文化財(遺跡)の調査研究を行い、その成果を広く公開するとともに、国民共有の財産で



■第2展示室



■第3展示室

ある遺跡を保護し後世に伝えるためにさまざまな活動を行っています。特に一般の方向けのイベントとして、毎年、アトリウム展示や公開講演会などを実施しています。

また、附属博物館では、奈良

県内の多くの遺跡から出土した資料を通じて、奈良県の歴史について理解を深めていただけるよう、常設展「大和の考古学」のほか、春秋2回の特別展、夏には発掘調査成果の速報展「大和を掘る」などを開催しています。展示室では、ボランティアの方々による展示解説があります。

#### 奈良県立橿原考古学研究所

所 橿原市畝傍町1番地 電 0744-24-1101 開 午前9時～午後5時 入 無料 休 土曜、日曜、祝日、12月29日～1月3日

#### 奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館

所 奈良県橿原市畝傍町50-2 電 0744-24-1185 開 午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）入 大人：400円（350円）、学生（大・高校生）：300円（250円）、小人（中・小学生）：200円（150円）、ただし、常設展に限り、学校の先生の引率により観覧する、奈良県内の小・中・高・特別支援学校生、土曜日の小・中・高・特別支援学校生などは無料となります。※（ ）は20名以上の団体料金 ※特別展開催中は、料金が変わります。休 毎週月曜日 ※月曜日が休日にあたる場合は開館し、その翌日休館、12月28日～1月4日、ほかに年度当初に定めた休館日

### 飛鳥京跡

明日香村



■伝飛鳥板蓋宮跡（大井戸跡）



■エビノコ大殿（東南郭の正殿）

飛鳥京は、明日香村岡に継続して営まれた7世紀の宮殿群の総称です。藤原京や平城京にならって「京」と呼んでいますが、明確な都の範囲が定められていたわけではありません。この地は645年に



■水をみたした飛鳥京跡苑池

なかのおおえのおうし  
中 大兄皇子と  
なかとみのかまたり  
中 臣鎌足らが  
そかのえみし いる か  
蘇我蝦夷・入鹿  
父子を倒した  
大化の改新の  
クーデタの舞  
台となった皇  
極 天皇の飛鳥  
板蓋宮（642  
～655）の場  
所と考えられ



■内郭南の正殿

てきました。

発掘調査の結果、<sup>じよめい</sup>舒明天皇の飛鳥岡本宮（630～636）や、<sup>のちの</sup>齊明天皇の後飛鳥岡本宮（656年）、さらに壬申の乱に勝利して即位した天武天皇・持統天皇の<sup>きよみ はらのみや</sup>飛鳥浄御原宮（672～694）が、継続して設けられていたことがわかってきています。「東南郭（エビノコ郭）」と呼ばれる日本最初の大極殿みられる施設

や、中島のある石組の池を中心とする苑池の跡も見つかっています。日本が中国をお手本にして律令に基づく国造りを始めた最初の場所と

所 奈良県高市郡明日香村

### 飛鳥池遺跡

明日香村



■飛鳥池遺跡全景



■製作途上の富本銭

■飛鳥池ガラス製作関係遺物

あすかであら 飛鳥寺の南東の谷筋で見つかった7世紀後半から8世紀初めにかけての工房の遺跡です。遺跡名は、江戸時代にこの地に造られた溜池の名にもとづくものです。

わどうかいちん 和同開珎よりも古い日本最初の銭貨「富本銭」をはじめ、金・銀・銅・鉄などの金属、ガラス、水晶、こはく、漆、べっこう、瓦など、さまざまな製品を製作していたことがわかりました。遺跡内の各所の遺構から、8000点近い木簡が見つかっています。谷の出口付近の塀で役所風の北半と、工房群が密集する南半に分かれます。北半は飛鳥寺との関係も考えられますが、工房は飛鳥寺というよりは、近くに位置する<sup>あすか きよみ はらのみや</sup>飛鳥浄御原宮に附属する国家的な性格をもつものだったといわれています。





■飛鳥池遺跡出土木簡

所 奈良県高市郡明日香村飛鳥

いしがみ いせき **石神遺跡** 明日香村



■錯綜する石組溝

■小石を敷き詰めた方形石組池



■石神・水落遺跡復元模型

飛鳥寺の北西方に位置する宮殿・役所の遺跡です。7世紀半ばの斉明天皇の時代に、蝦夷や南島の人々を迎えて行った国家的な宴会・儀式の場、迎賓館といってよい施設です。

672年の壬申の乱後、天武天皇が飛鳥浄御原宮に宮殿を定めると、それに付属する役所の区画として利用されました。遺跡の北側の山田道との間に広がる湿地帯からは、7世紀後半の天武・持統朝の木簡や



■石神遺跡出土木簡

木製品が多数発見されました。20世紀初めに掘り出された須弥山石や石人像は、この石神遺跡の宴会施設にともなう庭園の設備だったと考えられています。

所 奈良県高市郡明日香村飛鳥

あすかみずおちいせき **飛鳥水落遺跡** 明日香村



■現在の飛鳥水落遺跡

『日本書紀』の「皇太子、初めての漏刻を造り、民をして時を知らしむ。」の記述どおり、漏刻(水時計)を備えた楼閣状の建物遺跡です。この皇太子とは、中大兄皇子のことです。大陸の進んで制度を取り入れるのに熱心であった中大兄皇子は、文物の輸入についても同様で、当時としては画期的といえるこの施設を造ったと想像されます。

所 奈良県高市郡明日香村飛鳥



■飛鳥水落遺跡全景



■発掘遺構の模型(飛鳥資料館)



■水時計の復元模型(飛鳥資料館)

ならぶんかざいけんきゅうしょ **奈良文化財研究所** あすかしりょうかん **飛鳥資料館** 明日香村



飛鳥資料館では出土遺物や模型を通して、6世紀末から7世紀にかけて政治文化の中心であった飛鳥の歴史を紹介しています。館内では、高松塚古墳出土品や、飛鳥寺をはじめとする各寺院の出土品、須弥山石と石人像、水落遺跡の水時計遺構復元模型などがあり、屋外では飛鳥に点在する石造物を復元展示しています。また、山田寺跡出土の建築部材を使用した3間分の回廊展示は大変見ごたえがあり、当館を代表する展示の一つです。春秋の特別展と夏冬の企画展を行っています。



■復元した山田寺東回廊



■石神遺跡出土の石人像



■高松塚古墳出土品

所 奈良県高市郡明日香村奥山601 電 0744-54-3561 開 午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで) 入 一般:260(170)円、大学生:130(60)円、高校生及び18歳未満 小・中学生は無料 ※( )は20名以上の団体料金 休 毎週月曜日(祝日と重なれば火曜日) 12月26日～1月3日

人 250円(200円)、学生(高校・大学) 130円(100円)、小人(小・中学) 70円(50円) ( )は30名以上の団体料金 休 12月28日～翌年1月3日



■副葬品



■模写壁画

## 奈良県立万葉文化館

明日香村

### 明日香村埋蔵文化財展示室

明日香村



■キトラ古墳模型

旧飛鳥小学校の建物を利用して、明日香村出土の遺物やキトラ古墳石室の模型などを展示しています。土・日・祝日については、解説員を配置しています。

■展示風景

所 奈良県高市郡明日香村大字飛鳥112 電 0744-54-5600(明日香村教育委員会 文化財課) 開

午前9時～午後5時 入 無料 休 年末年始



■一般展示室



■日本画展示室

奈良県立万葉文化館は万葉のふるさと・飛鳥に平成13年9月に開館した『万葉集』をテーマにした新しいタイプのミュージアムです。日本画の代表作家が描いた、万葉集にちなむ創作日本画154点が万葉の息吹を伝えます。また、万葉の時代が人形やジオラマなどで体感できる空間や、万葉歌人の個性や心情を映像で紹介する万葉劇場を備え、館内に入った瞬間から、万葉の世界に触れることができます。

所 奈良県高市郡明日香村飛鳥10 電 0744-54-1850 開 午前10時～午後5時30分(入館は、午後5時まで) 入 一般600円

### 高松塚壁画館

明日香村

高松塚壁画館は解体修復中の高松塚古墳に隣接し、壁画発見当初の極彩色「飛鳥美人」をはじめ、貴重な国宝壁画全体を再現、1300年の時空を超えたその素晴らしさを紹介しています。館内には実際の古墳断面の標本(一部)展示や解説モニター・情報検索システムも整え、高松塚古墳の全貌を知ることができます。

所 奈良県高市郡明日香村平田439番地(国営飛鳥歴史公園高松塚周辺地区内) 電 0744-54-3340 開 午前9時～午後5時 入 大



高校・大学生500円 小・中学生300円 ※県内小・中・高校の学校行事で利用の場合は、観覧料が無料になります。🌿 毎週水曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始 展示替日

## 上之宮遺跡

桜井市



■上之宮遺跡園池遺構

桜井市上之宮にある6世紀から7世紀にかけての居館の遺跡です。四面に底をもつ大型の掘立柱建物を中心とする建物群、池とみられる長方形の石積みの遺構、それらを取り囲む柵や門のような遺構など、規模や構造からみてもかなりの地位の人物の屋敷と考えられています。地名から聖徳太子の上

宮とする説や、阿倍氏の邸宅と見る説があります。

石積みの遺構からは、現在日本最古(7世紀の前半)の木簡の一つである、金銀で装飾した刀を意味する文章が書かれた削屑が見つっています。

所 奈良県桜井市上之宮15-6

## 山田寺跡

桜井市



■山田寺跡全景

桜井市山田にある寺跡です。特別史跡に指定されています。大化の改新で活躍した蘇我倉山田石川麻呂が邸宅を寺に改めたもので

すが、648年(大化4)に彼が自害した後造営は中断し、天武朝に完成をみます。石川麻呂の孫にあたる皇后(後の持統天皇)のバックアップが大きかったと考えられます。

奈良文化財研究所の発掘調査によって、南北に並ぶ塔と金堂を回廊で取り囲み、その北に講堂を配置する伽藍の様子が明らかになりました。中でも11世紀前半の山崩れで倒壊した



■山田寺金堂跡



■山田寺回廊出土状況



■復元された山田寺東面回廊(飛鳥資料館)

回廊がそのままの形で出土するという大きな発見もありました。經典の貸し借りの記録など、7世紀から9世紀にかけての木簡も見つかり、他の考古遺物とともに重要文化財に指定されています。

所 奈良県桜井市山田

## 桜井市立埋蔵文化財センター

桜井市



■横穴式石室展示コーナー



■形象埴輪



■纏向遺跡展示コーナー

桜井市立埋蔵文化財センターでは、市内で発掘された出土品を中心に、旧石器時代から、奈良時代までの各時代ごとに常設展示を行っています。市内の主要な遺跡の出土品を通して、桜井の歴史を学ぶことができます。

また、「纏向遺跡コーナー」では、3・4世紀の日本の中心であった纏向遺跡から出土された数多くの日常土器や木器、祭祀用遺物を展示しています。

所 奈良県桜井市芝58番地の2 ☎ 0744-42-6005 🕒 午前9時～午後4時 入 一般200円 小・中学生100円、団体(20人以上)の場合、一般150円 小・中学生50円 ※特別展開催中は料金がかかります。🌿 毎週月・火曜日、祝日の翌日、年末年始12月28日～1月4日

## 氷室神社(都祁氷室)

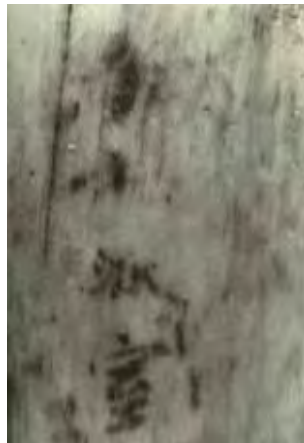
天理市

わが国でも珍しい氷の神を祀った神社です。社伝によると允恭天皇の時代(推定444年)に創建されました。付近の小高い丘には氷室(天然の冷蔵庫)跡といわれる大きな凹地が何ヶ所残っており、往時は「鬮鶏」または「都祁国」と呼ばれたところに冬季の氷を氷室にかこい、夏季にその氷を朝廷に献上したと云われています。古くは福住氷池の宮あるいは、都祁氷室、福住氷室と称して、皇室の御



領となりました。1988年、平城宮跡に近接した長屋王邸跡と思われる遺構から出土した35,000点に及ぶ木簡群の中に、「都祁氷室」に関するものがあり、皇室だけでなく長屋王家にも、夏にはこの氷室から氷が運ばれていたことが判明しました。

所 奈良県天理市福住町浄土 184



■「都祁氷室」と書かれた長屋王家木簡（部分）



■ 3階展示室（日本考古コーナー）



■ 3階展示室（中国考古コーナー）

展示する博物館です。各地の資料を通して、その地域に住む人々の生活や歴史を知り、お互いのところを理解することを目的として昭和5年（1930年）に設立されました。現在の収蔵資料数は30万点にも及びますが、そのうち約3000点を1～3階の常設展示室で広く一般に公開しています。今では現地でも見ることはなくなった北京の商店看板コレクションや、台湾先住民資料、日本の古代史を伝えてくれる埴輪や鏡類のほか、さいとう彩陶からとうさんさい唐三彩まで中国の陶磁史を实物でたどることができる展示は必見です。

所 奈良県天理市守目堂町250 電 0743-63-8414 開 午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで） 入 大人400円 団体（20名以上）300円 小・中学生200円 ※小・中学校の学校教育での団体見学は無料です。休 毎週火曜日（休日の場合は休日後の最も近い平日）毎月25日～27日、4月17日～19日、7月26日～8月4日は閉館致します。・創立記念日（4月28日）・夏期（8月13日～17日）・年末年始（12月27日～1月4日）

てんりしりつくるづかごふんでんじかん 天理市立黒塚古墳展示館 天理市



■三角縁神獸鏡

■実物大に復元された竪穴式石室

国史跡黒塚古墳のガイダンスを目的として平成14（2002）年に開館した展示施設です。館内では黒塚古墳の竪穴式石室を実物大で復元し、銅鏡（三角縁神獸鏡33面、画文帯神獸鏡1面）や鉄製刀剣類など副葬品のレプリカを展示しています。黒塚古墳を含む大和・柳本古墳群についての解説もあり、当地域の大型古墳について学ぶことのできる施設となっています。

所 天理市柳本町1118番地2 電 0743-67-3210 開 午前9時～午後5時 入 無料 休 毎週月曜日（祝・休日の場合は翌日も休館）、祝日、年末年始（12月28日～翌年1月4日）

てんりだいがくふぞくてんりさんこうかん 天理大学附属天理参考館 天理市



■ 1階展示室（朝鮮半島コーナー）

天理参考館は世界各地の生活文化・考古美術資料を収集・研究・

いこまやまきたほうようせき 生駒山北方窯跡

生駒市

奈良時代、生駒山地の山すそを利用して窯が大量に作られました。俵口町から北新町にかけての1帯は、特に須恵器を焼いた窯跡が多数発見されています。生駒山北方窯跡は、「生駒古窯跡群生駒地区」と呼ばれているこの地域の中であって、生駒山の中腹に位置しています。焼かれた須恵器は平城京へ運ばれたと見られています。



■生駒山北方窯跡

所 生駒市俵口

やまのとうまやあと 山本駅跡

京田辺市

大宝律令によって全国が五畿七道に区別され、主要道には駅を設置し、駅馬を置くことが定められました。山本駅は、元明天皇が都を平





■山本駅跡石碑

城京に遷した翌年の和銅4年(711年)に設置された、この「<sup>うまや</sup>駅」の一つです。  
平城京と大宰府を結ぶ山陽道の第一番目の駅として、また淀を経て丹波路へとつづく山陰道の要所として、緊急を要する使者に馬と食料を提供していたことが『<sup>しよくにほんぎ</sup>続日本紀』の記述から分かります。現在は、重要文化財の十一面千手観音立像を安置する<sup>じゆほうじ</sup>寿宝寺の傍らに石碑が建てられています。

所 京田辺市三山木塔ノ島(寿宝寺横)



■神雄寺本堂跡



■神雄寺イメージ図(早川和子)



■「神雄寺」と書かれた墨書土器

周辺から等身大の四天王像片などが出土し、ここが奈良時代の儀礼を中心とした寺院跡であると考えられています。

所 木津川市木津糠田

## 恭仁宮跡・大極殿跡

木津川市



■大極殿基壇



■大極殿の春

天平12(740)年、<sup>しやうぶてん</sup>聖武天皇は奈良の平城京から都を京都府最南端に位置する木津川市「<sup>くにしやう</sup>恭仁京」に遷都し、都の中心部「<sup>くにしやう</sup>恭仁宮」を加茂町<sup>みかのほら</sup>瓶原の地に造営を開始しました。1973年から開始している恭仁宮跡の発掘調査により、恭仁宮の規模は、東西約560m、南北約750mが確定し、平城宮の約1/3の大きさであることや即位式や元日朝賀など国家的儀式をおこなう建物「<sup>だいくでん</sup>大極殿」が平城宮大極殿を移築したものであったことがわかりました。また、現在の皇居(天皇の住まい)である内裏が2つの区画に分かれて存在する特異な性格を有していることもわかりました。

恭仁京はわずか5年の短命な都でしたが、都の一部は山城国分寺として活用され、大極殿跡の土壇上には、現在も礎石の一部が創建当時のまま残っています。

所 木津川市加茂町例幣・河原他

## 馬場南遺跡

木津川市

学研都市木津中央地区の開発にともない、多くの遺跡が発掘調査されましたが、その中でも未知の遺跡が幻の古代寺院「神雄寺(カムノヲ寺?)」の跡であることがわかりました。発掘調査では、<sup>きよくすいじやう</sup>曲水状池(曲がりくねった形状の池)跡から万葉の歌木簡や一万点におよぶ<sup>とう</sup>燈明<sup>みょうざら</sup>皿などが出土し、本堂跡では須弥壇(仏像を安置するための台座)

## 上津遺跡(泉津)

木津川市



■木津川と上津遺跡(中央下に発掘場所が見える)

上津遺跡は、木津川(当時は泉川)が形成した自然堤防上に位置し、発掘調査の結果、奈良時代中頃から平安時代にかけての遺構・遺物が発見されています。出土した遺物などから、平城京に供給する木材などを陸送し積み替える河川港「泉津」がおかれた国の施設ではないかと考えられています。

所 木津川市木津宮ノ裏

## 奈良山瓦窯跡

木津市



■鹿背山瓦窯通路跡（西から）

平城京の北方、京都府と奈良県の境に広がる丘陵上に点在する瓦を焼いた窯跡（それらを総称して「奈良山瓦窯跡」と呼んでいます）が発掘調査されました。調査の結果、奈良時代に平城宮・京や南都仏教寺院に供給する瓦を製作するため当時の瓦工人が生活をする場所も併設した

「市坂瓦窯跡」や完成した瓦を運送するための通路も残っていた「鹿背山瓦窯跡」などが確認されるなど、この地域が奈良時代に古代国家を支えた官宮瓦工業地帯であったことがわかりました。

所 音如ヶ谷瓦窯跡、鹿背山瓦窯跡、市坂瓦窯跡、梅谷瓦窯跡（木津川市）、歌姫瓦窯跡（奈良市歌姫町）

## 樋ノ口遺跡

木津市



■樋ノ口遺跡全景

樋ノ口遺跡は木津川市と精華町にまたがって分布する遺跡です。発掘調査により、奈良時代の掘立柱建物や築地がみつかりました。出土遺物には、土師器・須恵器などの日常に使う土器以外に、二彩・三彩陶器（緑・黄・白色の釉薬をつけたもの）といった高貴な焼き物や平城宮内で使われたのと同じ型式の瓦が出土しました。二彩・三彩陶器や平城宮と同じ瓦は、一般人では持てないものでした。こういった遺物の出土や、多くの

建物が築地塀（泥土をつき固めて作った塀）で囲まれた様子から、天皇の別荘である離宮もしくは寺院ではないかと考えられています。



■彩釉陶器類

## ふるさとミュージアム山城（京都府立山城郷土資料館）

木津市



■恭仁宮跡出土軒瓦



■相楽山銅鐸

ふるさとミュージアム山城（京都府立山城郷土資料館）では、南山城地方の特色ある歴史と文化を、考古・歴史・民俗の各分野で調査研究し、その成果を体系的に展示・公開しています。春・夏・冬に企画展、秋には特別展を開催し、それぞれの展示に関連する講演会・見学会なども企画しています。また、文化財セミナー

ーとして歴史を歩く・糸紡ぎ織り教室・古文書教室、ふるさと文化体験事業として土器・埴輪づくりや発掘体験を実施し、小中学校等への出前講座も行っています。

所 木津川市山城町上狛千両岩 電話 0774-86-5199 開 午前9時～午後4時30分 入 一般：200（150）円、小・中学生50（40）円 \*（ ）内は団体料金（特別展は別途料金。65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方とその介護者、小中学校等の学校教育活動の場合は無料。休 毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）、年末年始（12/28～1/4）

## 畑ノ前遺跡

精華町



■畑ノ前遺跡全景

弥生時代中期の集落跡、古墳時代後期の古墳群（群集墳）、奈良時代の豪族の居館跡が発見された複合遺跡です。中でも、奈良時代の居館跡は、当時の豪族の居住地がほぼ完全な形



■巨大な井筒

で発見された例として貴重で、特に、屋敷の南東隅に設けられた井戸に埋設されていた井筒は、高さ3.5m、直径1.1mの檜の一本を削り抜いて作った巨大なものでした。この地を本拠地とし、女帝孝謙天皇の寵愛をうけて地位を高めた稲舂間宿禰仲村女の一族の居館と考えられています。

所 精華町精華台一丁目26番地



くだらじあと  
**百済寺跡**

枚方市



■空から見た百済寺跡



■百済寺跡石碑

あまのがわ  
天野川右

岸の台地上に位置する古代寺院跡です。660年、朝鮮半島の百済が、唐・新羅の連合軍によって滅ぼされたとき、王族

が日本に渡来しましたが、その子孫で、奈良～平安時代の天皇家に重用された百済王氏によって、一族の氏寺として建立されたと考えられています。創建は、百済王 敬福が宮内卿に任ぜられ、河内守を加えられた750年

前後か、国家から財政援助を与えられた783年ごろと考えられています。発掘調査によって南門・中門・東西塔・金堂・講堂・食堂・回廊・東院跡などの伽藍建物の基壇（建物の土台部分の高まり）が発見されました。昭和27年（1952）に国の特別史跡に指定されました。

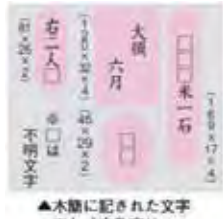
所 枚方市中宮西之町1番

きんやほんまちいせき  
**禁野本町遺跡**

枚方市



■出土した木簡の赤外線写真



■発掘された柱と井戸

禁野本町遺跡は、朝鮮半島から渡来した百済王氏の氏寺として有名な「百済寺跡」（特別史跡）の北に位置する遺跡です。これまでの調査で、弥生時代末～中世にかけての遺構があることが判明。平成13～17年度の調査では、奈良～平安時代前期の大型掘立柱建物を含む建物群、井戸、道路跡などを広範囲で検出。百済寺を中心にしたまちが形



■見学会の様子

成されていた可能性があります。

また、井戸から「大領」（郡司の長官。市長など現在の首長にあたる役職名）、「米一石」などと記された木簡12点や大量の削屑、

「少家」・「小家」などと記された墨書土器が出土し、郡衙（当時の役所）があった可能性も指摘されています。

所 枚方市禁野本町・中宮北町・上野3丁目ほか

【写真提供機関一覧】

- 平城宮跡（奈良文化財研究所）
- 第一次大極殿（奈良文化財研究所）
- 朱雀門（奈良文化財研究所）
- 平城朱雀大路（奈良市教育委員会）
- 東院庭園（奈良文化財研究所）
- 平城京左京三条二坊宮跡庭園（奈良市教育委員会）
- 奈良文化財研究所 平城宮跡資料館（奈良文化財研究所）
- 平城宮跡遺構展示館（奈良文化財研究所）
- 奈良市埋蔵文化財調査センター展示室（奈良市教育委員会）
- 奈良国立博物館（奈良国立博物館、宮内庁正倉院事務所）
- 平城京羅城門跡（大和郡山市教育委員会）
- 平城京十条（大和郡山市教育委員会）
- 平城京西市跡（大和郡山市教育委員会）
- 藤原宮跡（奈良文化財研究所）
- 奈良文化財研究所 藤原宮跡資料室（奈良文化財研究所）
- 橿原市藤原京資料室（橿原市役所 世界遺産推進課）
- 奈良県立橿原考古学研究所（奈良県立橿原考古学研究所）
- 奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館（奈良県立橿原考古学研究所）
- 飛鳥京跡（奈良県立橿原考古学研究所）
- 飛鳥池遺跡（奈良文化財研究所）
- 石神遺跡（奈良文化財研究所）
- 飛鳥水落遺跡（明日香村教育委員会、奈良文化財研究所）
- 奈良文化財研究所 飛鳥資料館（奈良文化財研究所）
- 明日香村埋蔵文化財展示室（明日香村教育委員会）
- 高松塚壁画館（財）飛鳥保存財団
- 奈良県立万葉文化館（財）奈良県万葉文化振興財団
- 上之宮遺跡（桜井市教育委員会）
- 山田寺跡（桜井市教育委員会、奈良文化財研究所）
- 桜井市立埋蔵文化財センター展示室（桜井市教育委員会）
- 氷室神社（都祁氷室）（天理市教育委員会、奈良文化財研究所）
- 天理市立黒塚古墳展示館（天理市教育委員会）
- 天理大学附属天理参考館（天理大学附属天理参考館）
- 生駒山北方築跡（生駒市教育委員会（生駒市デジタルミュージアム））
- 山本駅跡（京田辺市教育委員会）
- 恭仁宮跡・大極殿跡（京都府教育庁指導部、木津川市教育委員会）
- 馬場南遺跡（木津川市教育委員会、財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）
- 上津遺跡（泉津）（木津川市教育委員会）
- 奈良山瓦窯跡（木津川市教育委員会）
- 樋ノ口遺跡（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）
- ふるさとミュージアム山城（京都府立山城郷土資料館）
- 畑ノ前遺跡（精華町教育委員会）
- 百済寺跡（枚方市教育委員会）
- 禁野本町遺跡（枚方市教育委員会）
- 「大大論」戯画（宮内庁正倉院事務所）
- 空から見た平城宮跡（奈良文化財研究所）



■空から見た平城宮跡

## ●まほろば・けいはんな科学ネットワーク●

奈良女子大学が中心となって推進している地域貢献活動と(財)関西文化学術研究都市推進機構がけいはんな地域で推進している「科学のまちの子どもたち」プロジェクトの活動を融合し相乗効果を発揮するために構築された科学普及活動推進のためのネットワークです。

現在、次のような目標をかかげて様々な機関や人とのネットワークの構築を進めています。

- ①子どもたちに科学・技術の持つ本来の楽しさを理解させ、物事の本質を追究する姿勢を身につけさせる。
- ②科学・技術を日常の話題として家族や友人と語り合える地域文化を普及させる。



■「大大論」戯画(正倉院宝物)

2010年11月5日 第1版発行

文 ● 舘野和己(奈良女子大学文学部教授)

絵 ● さいとうあやこ©(京都精華大学マンガ学部講師)

編集協力 ● 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所

企画・編集 ● 鷓鴣雅則((財)関西文化学術研究都市推進機構 調査役)

デザイン ● いのうえなおこ(スタジオフィッツ)

印刷 ● 実業印刷(株)(奈良市東九条町6-4)

発行 ● まほろば・けいはんな科学ネットワーク推進室

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

奈良女子大学 社会連携センター内

本書の内容を無断で転載・使用することを禁じます。

本冊子は、(独)科学技術推進機構(JST)「地域の科学舎推進事業地域ネットワーク支援」の助成により制作しました。